

ふるさとの昔話

ニイハオ 你好



農村部の生活

中国の農村部は都市部と異なった生活形態をしています。

農村部は家族が重要な労働力となるので、3世代家族が多く、長男は家を継ぎます。

また、中国は一般的に一人っ子政策が進められていますが、農村部は例外とされており、子供は2人ぐらの家庭が多くみられます。

農村部の特徴は自分の家を認められていることで、都市部に比べればゆったりとした家に住んでいます。

しかし、カラーテレビ・冷蔵庫・洗濯機などの電化製品の普及は、都市部と比較して大きな差があります。

嘉興市が浙江省の食料基地だけでなく、中国全土の食料生産基地として重要な位置づけをされているのは、嘉興市農民の高い生産力を示しています。

(内容は嘉興市のある浙江省から静岡県に派遣されていた浙江省人民政府外事辦公室の虞希華さんから取材したものです。)



△話してくれた佐野忠作さん

宮島新田の

馬頭観音

田子浦地区の宮島新田に、馬頭観音を祭る小さな観音堂があります。馬頭観音は、馬を初めとした生き物の霊を救う仏様です。市内には多くの馬頭観音があり、農業を通じた人と動物との深いかわりがあります。

つくれ講

昔はこの村にも「つくれ場」と呼ばれる共同の作業場がありました。つくれ場というのは、農家の仕事を手伝う馬や牛の足のつめがささくれだつてしまうので、それを切るなどして足を直す場所でした。

宮島新田のつくれ場では、いつものころからか、馬頭観音菩薩を祭り、農家を手伝ってくれた馬の供養をするようになりました。そして、馬や牛を飼っている農家で少しづつお金を出し合い「つくれ講」という集まりをつくりました。つくれ講は、昼に作業をやり、夜はお酒を飲んでみんなで話をしたり、村の社交の場であり、農家の楽しみの一つでした。

ぴつたり観音

また、この観音堂には「ぴつたり観音」と書かれた石碑があります。近所に住む佐野忠作さんは、

「昔、ここにおじいさんの堂守が住んでいて、子供が病気になると『なむ、ぴつたり。なむ、ぴつたり』と、痛いところをなでてやると不思議に治ったので、ぴつたり観音と言うそうだよ」と教えてくれました。また、堂守のおじいさんが易をやつて、ぴつたり、ぴつたりと当てるのでぴつたり観音と言う説もあるそうです。

手びくすのお祭りを

観音堂は、昭和二十七年に火事で焼けてしまい、馬頭観音の碑も壊れてしまいました。その後、秩父(埼玉県)の四万部寺から馬頭観音を、高野山から聖観音を勧請して祭つてあります。

毎年六月十三日は、町内を挙げてのお祭りで、子供みこしや打ち上げ花火、それぞれの班の出店などでにぎわいます。区長の小井出さんは「手づくりのお祭りが人づくり、まちづくりになるんじゃないかな」と話してくれました。

地名の由来

中野 (大淵地区)



中野村は、今泉東泉院の寺領村でしたが、村の成立の経緯は明らかではありません。一説では、甲州甲西町にやかたのあった秋山光朝の子孫が移住してきたとも言われています。理由は信玄の命令で駿河進出の橋頭堡を築くための開拓農民だったというものです。中野という地名は、秋山氏の故郷の村名だったか、それとも大淵と穴原の間の野原という意味かも知れません。

こちら編集室

広報ふじをよーくご覧になっている人は、先号と本号の表紙を見て、ある同一点を発見されたのではないでしょう。先号の表紙は小学校のプール開き。本号の表紙は小学生のキャンプ。偶然、どちらも東小の児童が登場していることになりました。その原因は雨。梅雨のあい間をぬって撮影したところ偶然の一致となりました。あしからず。